

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第276回

ペレ

(エドソン・アランテス・ド・ナシメント)

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和3年10月18日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

The more difficult the victory, the greater the happiness in winning.

勝利が難しければ難しいほど、

勝利における喜びは大きくなる。

ペレこと、エドソン・アランテス・ド・ナシメントは、ブラジルの元サッカー選手。アフリカ系ブラジル人。サッカーブラジル代表のエースとして3度のFIFAワールドカップ優勝。15歳でデビューしてから1977年に引退するまで、実働22年間で通算1363試合に出場し1281得点を記録した。

Column

今回紹介する“サッカーの神様”と呼ばれるペレですが、本名ではなくニックネームだったとは知りませんでした。日本のタレントやYoutuberの中には“芸名”を名乗っていて本名がわからない人はいますが、アスリートでここまで有名でニックネームがあっても本名を知られていない人は非常に少ないと思います。

今回の言葉にある『勝利が難しい』というものについて、様々な状況が予想されます。現在、みなさんが挑む勝負としては学業であれば試験、部活であれば大会や発表会などになると思います。その中で勝利が難しいということは、自分の実力に対して試験や相手のレベルが高いことや、ケガや体調不良などのアクシデントによりベストパフォーマンスを発揮することが困難な場合などが挙げられます。スポーツの世界で生きてきた私はこれまでに数々の勝負に挑み、勝利の喜びや敗北の悔しさを経験してきました。特にトーナメント戦は、優勝以外は必ず敗北することから、以前は準優勝に終わった時に、悔しさのあまり『準優勝も一回戦敗退も同じ』と今までの自分や仲間の努力を否定的に捉えていました。経験を重ね、徐々に客観的に分析・反省ができるようになり、そのような捉え方はしなくなりましたが、敗因の分析よりも見えてくることがありました。それは『相手も必死だ』ということです。当日を迎えるまでに十分とは言えなくても日々のベストを尽くし、積み重ねてきた技術よりも『思い』が大切なのです。そういう意味では準優勝だとしても準決勝まで勝ち上がる中で自分たちに敗れ、涙を飲んだ人たちがいます。誰かが笑っている裏では誰かが泣いていると教わったことがあります。思うような結果が得られないとつい否定的に捉えてしまいがちですが、それは自分以外の人をも否定することになるのかもしれない。様々な環境や置かれている状況がありますが、『今日のベスト』を積み重ねていくことこそが、遠回りに感じますが大きな喜びを得る最短の近道なのではないでしょうか。仲間同士で互いの努力を認め、称え合いながら、その先にある大きな目標達成に向かって進んでいくことを願っています！